

## 会記

著者	植物地理・分類学会
著者別表示	The Society for the Study of Phytogeography and Taxonomy,
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	48
号	1
ページ	110
発行年	2000-08-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00055294">http://hdl.handle.net/2297/00055294</a>

## 会 記

## 1999 年度会計報告 (1999 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

## ○植物地理・分類学会

収入 (A)	5,256,551 円	支出 (B)	3,299,468 円
会費	1,828,700	印刷費 (46-2,47-1 号)	2,376,000
バックナンバー	74,000	送料・通信費	197,695
書籍売上	0	編集事務	100,000
別刷代金	239,580	英文校閲	100,000
超過ページ組賃	15,000	会計事務	150,000
カラー図版代金	320,000	庶務事務	70,329
利息	232	文具・コピー等	7,329
雑収入 (論文抄録等)	26,810	封筒	63,000
総会関係 (参加費)	14,700	会議旅費	66,000
前年度繰越金	2,737,529	自然史学会連合連絡費	20,000
		雑支出	5,955
		総会関係	213,489
		運営	24,532
		茶菓	3,087
		招待講演	45,000
		懇親会等補助	40,090
		印刷・送料	100,780

差引 (A-B) 1,957,083 円 (次年度へ繰り越し)

## ○植物地理・分類学会後援会

収入 (A)	1,493,553 円	支出 (B)	122,642 円
拠金 (0 件)	0	審査会議費	42,000
前年度繰越金	1,493,553	受賞金	50,000
		受賞者旅費	30,000
		文具等	642

差引 (A-B) 1,370,911 円 (次年度へ繰り越し)

## 新入会員 (2000 年 1 月～2000 年 7 月)

2 月 4 日	茨木 靖	〒770-8070	徳島市八方町向寺山 徳島県立博物館
3 月 15 日	中野真理子	〒520-2113	大津市上田上平野町字大塚 509-3 生態学研究センター
3 月 31 日	堀 祐一	〒930-8555	富山市五福 3190 富山大学理学部生物学科
	堀田 博昭	〒930-8555	富山市五福 3190 富山大学理学部生物学科
	沢之向 隆	〒930-8555	富山市五福 3190 富山大学理学部生物学科
4 月 6 日	林 佳貴	〒124-0011	葛飾区四つ木 1-19-1
4 月 24 日	岡崎 純子	〒582-8582	柏原市旭ヶ丘 4-698-1 大阪教育大学 教員養成課程生物
5 月 9 日	斉藤 隆登	〒731-0102	広島市安佐南区川内 1-29-8
6 月 5 日	北川 淑子	〒225-0011	横浜市青葉区あざみ野 3-1-6-205
6 月 12 日	大悟法 滋	〒943-8512	上越市山屋敷 1 上越教育大学学校教育学部自然系
6 月 27 日	内山 秀樹	〒003-0023	札幌市白石区南郷通 6 丁目北 2-26 ドリーム 88 101 号

## 退会会員 (2000 年 1 月～2000 年 7 月)

長谷部光泰	〒444-0867	岡崎市明大寺町字西郷中 38	基礎生物学研究所
日比野 修	〒489-0006	瀬戸市三沢町 2-76-2	
井波 一雄	〒464-0076	名古屋市千種区豊年町 15-20	
岩田 芳隆	〒019-1404	秋田県仙北郡六郷町字古館 89-2 (逝去)	
守矢 淳一	〒254-0061	平塚市御殿 1-1-5	
中新田育子	〒981-3131	宮城県黒川郡大和町学苑 1-1	宮城大学事業構想学部事業計画学科
小柏 裕香	〒930-8555	富山市五福 3190	富山大学理学部
長田 武正	〒818-0101	福岡県太宰府市観世音寺 2-1-3	
矢島 孝昭	〒920-1192	金沢市角間町	金沢大学教養部生物

## 住所・氏名変更及び訂正 (2000 年 1 月～2000 年 7 月)

橋本竹二郎	〒573-1105	大阪府枚方市南楠葉 1 丁目 43-5-103	→〒470-1141	豊明市阿野町林ノ内 3-6
島山 茂雄	〒028-3452	岩手県柴波郡柴波町片寄字川原 67-2	→〒021-0885	岩手県一関市田村町 3-49-1 A 201
星 良和	〒739-8526	東広島市鏡山 1-4-3	広島大学理学部附属植物遺伝子保管実験施設	→〒836-8585 大牟田市東萩尾町 150 有明工業高等専門学校物質工学科
池上 宙志	〒920-1192	金沢市角間町	金沢大理学部自然史大講座植物自然史分野→	〒390-0862 松本市宮淵 3-2-36 スカイハイツ 103 号
磯谷 達宏	〒195-8550	町田市広袴町 844	国士舘大学	→〒195-8550 町田市広袴 1-1-1 国士舘大学
岩野 俊逸	〒949-5222	新潟県刈羽郡小国町横沢 206-1	→〒997-0839	鶴岡市砂田町 10-19
岩槻 邦男	〒171-0021	東京都豊島区西池袋 3-34-1	立教大学理学部→	〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 815-29
川内野喜治	〒857-0102	佐世保市松瀬 873-4	→〒859-6405	北松浦郡世知原町開作免 427-5
小藤累美子	〒444-0867	岡崎市明大寺町字西郷中 38	基礎生物学研究所	→〒920-1192 金沢市角間町金沢大学理学部生物
丸野 勝敏	〒899-8605	鹿児島県曽於郡末吉町二之方 6190-1	→〒891-0113	鹿児島市東谷山 1-51-8
宮本 太	〒156-0054	世田谷区桜丘 1-1-1	東京農業大学農学科	→〒243-0039 厚木市船子 1737 東京農業大学農学科
村上 哲明	〒606-8393	京都市左京区川端通り丸太町下ル東入東竹屋町	京大熊野職員宿舍 113 号	→〒606-8224 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科植物学教室
須山 知香	〒441-3147	豊橋市大岩町字大穴 1-238	豊橋市自然史博物館	→〒920-1192 金沢市角間町金沢大学理学部生物学科植物自然史講座
高橋 千草	〒940-0072	長岡市柳原町 2-1	長岡市立科学博物館	→〒223-0061 横浜市港北区日吉 4-5-5 森野ハウス 201 号
高橋 英樹	〒060-0003	札幌市中央区北 3 西 8	北海道大学農学部附属植物園	→〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目 北海道大学総合博物館
田中 一博	〒359-1143	所沢市宮本町 2-23-103	→〒359-1145	所沢市山口 888-3-2-402
田中 靖子	〒194-0042	町田市東玉川学園 3-3165	昭和薬科大学生薬学教室	→〒190-0021 町田市羽衣町 2-38-4
田澤 祐介	〒233-0001	横浜市港南区上大岡東 2-47-32	→〒180-0023	武蔵野市境南町 5-3-3 くるみ荘 101
寺田 和雄	〒910-8580	福井市大手 3-17-1	福井県教育庁文化課	恐竜博物館建設準備グループ →〒911-8601 勝山市村岡町寺尾 51-11 福井県立恐竜博物館
内田 暁友	〒060-0003	札幌市北 3 条西 8 丁目	北海道大学農学部附属植物園	→〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町 49-2 斜里町立知床博物館
山田 智子	〒930-8555	富山市五福 3190	富山大学理学部	→〒915-0256 福井県今立郡今立町赤坂 49

前巻 (Vol.47) にて、以下の方の入会のご報告がされておりました。お詫びとともに追記させていただきます。

1999年4月16日 千葉 道徳 〒270-1138 我孫子市下ヶ戸 109 コーポラス笹山 203

### 来年度 (2001 年度) からの会費変更のお知らせ

近年、植物地理・分類研究の印刷費が高騰しており、その結果として準備金である年度ごとの繰越金が小さくなり続けています。97年度に333万だったものが、98年で274万、そして99年度では196万になりました。この減少のスピードを考慮すると2000年度末には130万ほどに目減りすることが予想されます。1号の出版に100万円以上のコストがかかることから、学会としては100万円以上の準備金を維持することが必要だと考えられます。そこで、今年度の総会において、会費値上げの是非が議論され、以下のように会費を変更することが了承されました。

	旧 (2000 年度まで)	→	新 (2001 年度から)
個人会員	3,000 円	→	4,000 円
学生会員	1,000 円	→	1,000 円
団体会員	5,000 円	→	6,000 円

既に来年度以降の会費を納入されている方については、個別に不足分等について連絡させていただく予定です。植物地理・分類研究については、さらに内容の充実に努力すると同時に、印刷費の低減の方法について検討を重ねていく所存です。どうか、ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

### 植物地理・分類研究バックナンバーのお知らせ

“植物地理・分類研究”は、その前身である“北陸の植物”が1952年に創刊されて以来、会員の皆様のご支援により着実に巻を重ねてまいりました。第27巻 (1979) 以降については十分な残部数があります。購入等のお問い合わせについては、会計幹事 (綿野 泰行 TEL: 076-264-5705, FAX: 076-264-976, E-MAIL: watano@kenroku.kanazawa-u.ac.jp) までお願いします。

### バックナンバー価格表 (1巻ごとの価格)

Vol.27~Vol.29	個人会員 1,500 円	団体会員 2,500 円	会員外 3,000 円
Vol.30~Vol.43	個人会員 2,000 円	団体会員 3,000 円	会員外 4,000 円
Vol.44~Vol.47	個人会員 3,000 円	団体会員 4,000 円	会員外 6,000 円

## 植物地理・分類学会 2000 年度大会

2000 年度大会は 6 月 3 日（土）に金沢大学薬学部講堂で行われた。総会は午後 1 時より開始した。初めに福井大学の横山俊一氏を議長に選出した。

報告事項として庶務幹事から 1999 年 6 月から 2000 年 5 月までの活動報告が行われ、会誌の発行状況、幹事会・評議員会での審議内容、等が報告された。また、日本学術会議第 18 期会員選出が 5 月に行われ、本会から岩槻邦男氏を会員候補者としたことが報告された。引き続いて会計幹事から会計報告が行われ、会計監査の米山・高木両氏より会計報告に誤りがないとの報告が行われ、総会で承認された。

協議事項は初めに、庶務幹事から 2000 年度の活動計画が示され、会計幹事から予算案の説明があり、質疑の後予算案は原案どおり承認された。次に、会長から会費値上げの案が提出された。この提案を補足するために会計幹事が図表などを用いて、印刷費など諸経費の高騰で今のままの会費では数年後に会の財政が破綻することを説明した。この提案に対して特に強い反対意見はなく、挙手の結果賛成多数で会費値上げが承認された。この結果、2001 年度からの年会費は個人会員が 4,000 円、団体会員は 6,000 円、学生会員は据え置き 1,000 円となる。

今年度は役員改選の年であり、以下のような新役員が総会で承認された。期間は 2 年間である。会長 鳴橋直弘；庶務幹事 木下栄一郎；会計幹事 綿野泰行；編集委員長 鳴橋直弘；幹事 植田邦彦（渉外）、古池 博、太田道人、野上達也、戸崎弥生、西沢 徹；会計監査 米山競一、高木政喜；評議員 石沢 進、清水建美、中田政司、御影雅幸、高橋 弘。最後に 2001 年度大会は富山で開催されることが会長から報告され、総会は終了した。

午後 2 時から「植物地理・分類学会賞」授賞式が行われた。審査報告が読み上げられた後、鳴橋会長から受賞者の南谷忠志氏（宮崎県総合博物館）に賞状と副賞が贈られた。引き続いて「九州の植物新知見」と題する受賞講演が行われた。午後 3 時から菊池多賀夫氏（岐阜大学）による招待講演、「植生と微地形」が行われた。

午後 4 時から一般講演が行われ、講演者とタイトルは以下の通りである。

- 1 須山知香（金沢大・理）・藤原直子（豊橋市自然史博物館）：日本新帰化の水草ミズヒマワリ（キク科）
- 2 高橋ゆかり・石沢進（新潟大・理・自然環境）：新潟県新発田市升湯におけるムジナスゲの分布・生態
- 3 河野和博・五百川裕・大悟滋（上越教育大・自然・生物）：タタラカンガレイの分布と地理的変異
- 4 鳴橋直弘（富山大・理・生物）・梅本康二（富山県花卉球根農協）・若杉孝夫（朝日町立福井総合植物園）：オオユリワサビの正体
- 5 岩坪美兼・折川武司・鳴橋直弘（富山大・理・生物）：スイバとヒメスイバの染色体変異と性表現
- 6 浅野恵子・木下栄一郎・植田邦彦（金沢大・理）：アロメトリーを用いたカンアオイ属植物の葉形比較

大会参加は約 80 名で、受賞講演、招待講演、一般講演ともに活発な質疑応答が行われ、盛況のうちに幕を閉じた。

午後 7 時から石川厚生年金会館に場所を移し、懇親会が和やかに行われた。

## エクスカーション

今回のエクスカーションは、福井・石川県境付近の海岸域 3 ヶ所の植生を見て回った。

最初の観察地である塩屋海岸では、この日一日ご案内いただいた古池博氏より日程説明の後、観察を行った。この砂浜は、1997 年のロシア船籍タンカー「ナホトカ号」海難事故による重油の漂着で汚染されたが、現在、ハマヒルガオ、コウボウシバ、ハマボウフウなどの美しい海浜植生が広がっていた。しかし、砂浜を探すと小さな油の固まりが残っており、油汚染消失の困難さを感じた。

汀線から砂丘上面にかけては、ネコノシタ、ウンラン、ハマハタザオ、ハマゴウなどが砂地をおおう。アマナスマレ等海岸性のスマレは、花はほとんど終わり果実を付けていた。招待講演にお越しいただいた菊池多賀夫氏より、砂丘全体を見渡ししながら、この場所では植生形成に水の有無は二次的であり、風の力による砂の移動が大きく作用していること、定着した植物が砂に埋められてはそれを突き抜けて成長し、複



合して大きな群落になっていくという砂丘植生独特の形成過程をご説明いただいた。

また、この塩屋海岸は、海に近い先端部まで安定した植生がある点が面白く、ぜひ残ってほしいという感想を述べられた。春の花と初夏の花との端境期であったが、僅かに咲き残ったスマレと、一足早く咲き出したナミキソウの美しい花を楽しむことが出来た。

鹿島の森は、海岸際の汽水湖に面して、こんもりと茂ったタブノキ、スダジイ、ヤブツバキの社叢林であるが、ここでは地層の変動に伴った植生の変化を観察できた。地表面が滑り落ちるために斜めになった木々や、そのために出来たギャップにまずヤダケが進入し、後にヤブツバキに変わっていく様が興味深かった。島の周囲の栈橋を歩き、林の外観を観察した後で昼食をとった。

午後から観察した片野海岸は、凝灰岩と砂岩による海崖上に松林が発達し、崖の途中からの湧水により崖棚上にはハナショウブが生えるといった面白い場所であった。クロマツ林中ではハマボス、カワラナデシコ、クサスギカズラ等が観察できた。

今回は砂浜植生、海際に発達した照葉樹林、そして海岸段丘上の松林と崖棚の湿地など、変化に富んだ環境中の植物を観察することが出来た。

(須山知香)

## 2000 年度植物地理・分類学会賞の審査結果について

2000 年度植物地理・分類学会賞の受賞者は審査委員会による厳正な審査の結果、下記のように決定いたしました。

受賞者 南谷 忠志

宮崎市恒久 5 丁目 4-7

推薦者 矢原 徹一

南谷忠志氏は宮崎県のご出身で、昭和 34 年に宮崎大学学芸学部中学課程入学、昭和 38 年に同学を卒業された。昭和 38 年から宮崎県の高校教諭として永年勤務された後、平成 3 年に宮崎県総合博物館に移られ、平成 10 年に宮崎県総合博物館副館長となられ現在に至っている。また、平成 9 年から宮崎県立大学の非常勤講師を兼任されている。

南谷氏は過去 30 年以上にわたって宮崎県を中心に調査を行い、九州地方の植物相を明らかにしてきた。これらの調査の中で、特異な花形態をもつオナガカンアオイ、根茎が直立する点で日本に類似のものが全くないヒュウガシケンダを発見した。また、ヒュウガカナワラビ、ヒュウガアジサイをはじめ多くの新分類群や日本あるいは九州新産植物を発見し、植物地理学に貢献していることは大いに評価できる。南谷氏は単なる植物愛好家あるいは植物採集家ではなく、自らも学術雑誌に論文を書き植物地理学や植物分類学に対し貢献されている。一例として、大淀川およびその支流のカワゴロモ属植物について近縁種との詳細な分類学的比較研究を行い、これは今村俊一郎博士が未発表の新種であるとの結果を得て、オオヨドカワゴロモ (*Hydrobryum kobibanus* Imamura ex Nakayama et Minamitani) と命名した。これらの成果は「宮崎の植物 I, II」, 「宮崎県大百科事典」, 「宮崎の植物分類地理」, 「宮崎の維管束植物目録」などの単行本や「植物研究雑誌」, 「日本シダの会会報」, 「宮崎植物研究会誌」, 「宮崎県高等学校教育研究会誌」, 「宮崎県総合博物館研究紀要」, 等に発表されている。

南谷氏は野生植物の保護や、啓蒙活動などの社会における活動にも深く関わっている。宮崎植物研究会の発起人の一人であり、同研究会発足以来、理事として会の発展に努められてきた。また、絶滅危惧植物問題検討委員（日本植物分類学会）、希少野生動植物種保存推進員（環境庁）などの学術団体や国・県等の審議委員として野生植物の保全に取り組んでいる。また、宮崎県総合博物館等の活動や、宮崎県内の古老約 200 人に植物と人との関わりを民族学的見地から取材し著書としてまとめられるなど、地域住民に対して植物に関する教育活動や啓蒙活動を行っている。このような野生植物に関する研究業績や社会的活動に対し平成 3 年に宮崎県文化賞が贈られている。

以上のように南谷忠志氏の業績は、植物地理学および植物分類学の分野において学術的、教育的見地からまことに顕著であり、植物地理・分類学会賞を授賞するにふさわしい方であると審査委員会は全員一致で決定した。同氏には今後ともいっそう研究に邁進され、当学会においても活躍されることを願ってやまない。

2000 年 3 月 4 日

植物地理・分類学会賞審査委員会

## 投 稿 規 定

(1999 年 12 月 11 日部分改訂)

### 編集方針

「植物地理・分類研究」は、植物地理・分類学会機関誌として年 1 巻 (2 号) 刊行される。本会誌は、総説、論文、短報、ノート (新産地情報等の雑録) のほか、新刊紹介、追悼文、その他編集委員会が掲載を認めたものを掲載する。本文は日本語または英語を使用。

### 投稿資格

「植物地理・分類研究」に投稿する者は、原則として本会会員 (共著の場合は 1 名以上の本会会員を含む) に限る。

### 原稿の受付

原稿は、投稿規定に従って書かれたものに限り受付ける。

### 原稿の審査及び採否

投稿された原稿は、2 名 (短報は 1 名) の審査員が審査し、その意見のもとに、編集委員会が採否を決定する。

### 論文の受理

編集委員会がその論文の掲載を可とし、編集委員長がそれを認めた日をもって、その論文の受理日とする。なお、掲載順は編集委員会によって決定するものとする。

### 著作権

本誌掲載の論文、短報、ノート、その他の著作権は、植物地理・分類学会に帰属する。著者は、著作権を委譲する旨の書類を、最終原稿送付時に本学会に提出する。

### 論文の長さ

本論文は、刷り上がりで、図表を含み 8 頁までとする。短報とノート (雑録) は 4 頁までとする。ただし超過頁の組版代 (1 頁につき 6,000 円) を著者で負担する場合には制限しない。

### 原稿の部数

本稿 1 部のほか、コピー 2 部、合計 3 部を提出する。その際、表・図は 3 部ともに鮮明なコピーを送ること (写真版については、写真原図版を写真に撮ったものか、または審査に使用し得る程度の鮮明なコピーとする)。再審査用の修正原稿を送付する場合は、最初の原稿送付時と同様、正本とコピー 2 部の合計 3 部を提出すること。審査終了後の最終原稿は、2 部をファイル名を明記したフロッピーディスクと共に送付する。表・図の原図は、掲載決定後の最終原稿とともに送付すること。なお、原図、表は原則として返却しない。返却希望の場合には、予めその旨を申し出るとともに、宛先を記入した返送用封筒を、最終原稿の送付時に必ず同封すること。

### 原稿の書き方

本論文は、①著者名と表題 (和英両方)、②所属と住所、③Abstract (英文で 250 語以内)、④英語のキーワード (5 語以内でアルファベット順)、⑤本文、⑥引用文献の順序で構成するものとする。短報は、①著者名と表題 (和英両方)、②所属と住所、③本文、④引用文献の順序で構成するものとする。本論文・短報は、英文の場合、さらに和文の摘要を付けること。また、場合により Appendix を付けることも可。また短報が和文の場合 Summary を付けることも可。ノート (雑録) は、英和両文で著者名と題名を付ける。

本文中で使用する単位は、国際単位系 (SI) に限る。図の説明文は、図中には入れ込まず、独立した原稿として用意すること。なお、全ての様式において脚注は用いない。

### 原稿の用紙

英文原稿は、A4 判用紙に上下 3 cm 程度、左右 2.5 cm 程度あけ、ダブルスペースで 25 行を原稿の 1 頁とする。和文原稿の場合は、原則として日本語ワードプロセッサを使用し、A4 判の用紙に周囲それぞれ 3 cm 程度の余白を取ったうえで、30 字×30 行程度を原稿の 1 頁として作成する。手書きの場合には、A4 判 400 字詰め原稿用紙を用いること。

### 図と写真

図および写真は、そのまま印刷できるようにレイアウトして、堅い A4 判の台紙にはりつけること。裏面には著者名と図番号、天地、縮小率を明記すること。写真は原寸大、図は 67% 縮小程度が望ましい。A4 判に納めることが不可能な植生表のような場合には、A4 に分割したコピーを添えること。図にはスケールを表



示し、図中の記号、数字には活字(写植を含む)をはりこむこと。図は原則として刷り上がりで15 cm(頁巾)×19 cm以内または7 cm(半頁巾)×19 cm以内(いずれも幅×高さ)であること。図表および写真の説明は、原則として英文とする。なお、図表は希望の挿入位置を原稿中に指示すること(著者による図表などの縮小率や位置の指定は、編集委員会において若干変更する場合があります)。カラー写真・図版および折り込みの図表は、実費を著者で負担する場合に限り掲載する。カラー写真の場合、1枚(図1枚のことで、それが写真数枚からなっている可)につき50,000円かかります。

#### 学名および標本庫の表示

学名は、属名および種形容語そしてそれ以下の分類群の形容語のみをイタリックで表示する。原則として、本文中では学名以外はイタリックを使用しない。学名は初出時に命名者名を付ける。学名の命名者名は、省略形を使用する場合、Brummit, R. K. and Powell, C. E. (eds.), 1992. *Authors of plant names*. 732 pp. Royal Botanic Gardens, Kewの表記を用いる。標本庫の略語はHolmgren, P. K., Holmgren, N. H. and Barnett, C. B. (eds.) 1990. *Index herbariorum* 8 ed. 693 pp. New York Botanical Garden, New Yorkに従ってください。

#### 文献の引用

引用文献は、本文中に引用した全てを記さなければならない。文献の配列順序はアルファベット順とし、一件ごとに改行する。すなわち、第1著者の異なるものはアルファベット順とし、姓が同じ場合は名のアルファベット順とする。第1著者が同一の場合には、単独のものを最初とし、そのあとは、第2著者の氏名のアルファベット順とする。第2著者も同一の場合には、第3著者以下について上記に準じる。著者が同一のものについては、発表の年代順とする。同一著者、同一年代のものは、年号のあとに小文字のアルファベットを付して、1999 a, 1999 bのように区別する。著者が3名以上で第1著者が同じである場合は、他の著者が異なっている時でも年号のあとにアルファベットを付して区別する。なお本文中での引用は、石川(1999)もしくは(Toyama 1999)のように著者名と発表年を用いる。なお著者が2名の場合、石川・富山(1999), (Ishikawa and Toyama 1999), 3名以上の場合、石川他(1999), (Toyama et al. 1999)の形式を用いること。

a 雑誌の場合: 著者名(姓前名後とし、すべての著者名をあげる)、年号、論文表題、雑誌名、巻数(太字): 頁とし、通し頁でない場合のみ巻数の次に丸がっことで号数をあげる。

石川太郎. 1989. 日本産イネ科の系統分類. 地理分類研究 **25**: 33-42.

Ishikawa, T. and Toyama, J. 1990. Two new species of *Poa* (Gramineae) from Japan. *J. Jpn. Bot.* **65**: 4-12.

富山次郎. 1991. 富山県産イネ科目録. イネ科研究レター (52): 8-9.

b 単行本の場合: 著者名(aに同じ)、年号、表題、引用頁もしくは総頁数、発行所、発行地の順とする。なお発行地が複数の場合は一箇所のみとする。共同執筆や論文集、報告書等の場合、表題の後に共著者名もしくは編集者名、そして書籍表題を付け加えること。

福井三郎・新潟四郎. 1989. 日本海沿岸地域のエノコログサ属の生態. 日本海学会出版会(編). 日本海学会報告書, pp. 24-31. 日本海大学, 新潟.

石川太郎. 1981. イネ科の分類. 506 pp. 富山書房, 東京.

石川太郎. 1984. イネ科. 富山次郎(編). 日本植物誌 III, pp. 38-78. 石川出版, 金沢.

Ishikawa, T. 1985 a. Taxonomic study of Asiatic Gramineae. 1204 pp. Smith and Brown, New York.

Ishikawa, T. 1985 b. Morphology in Gramineae. Willson H.B., Clemens, A. C. and Backer, I.P. (eds.). *Gramineae in the world*, pp. 23-45. Academia, London.

富山次郎. 1984. ユリ科. 富山次郎(編). 日本植物誌 III, pp. 20-78. 石川出版, 金沢.

なお、引用文献を他言語表記にした場合, (in Japanese), (in Japanese with English summary), (in Russian), (in Chinese) 等を付記する。その他、原稿の体裁については最近号をよく参照のこと。

#### フロッピーディスクの送付

最終原稿は、MS-DOS形式のフロッピーディスクにテキスト形式で保存して提出すること。ただし、手書きの原稿については、その限りではない。なお、ワープロ機や日本語ワープロソフトで英文原稿を作成する場合、単語の終わりのところで改行を手動で入れるようご協力下さい。

#### 校正

原則として、初校を著者が行い、第2校以降は編集委員会の責任において行うものとする。活字は編集委員会が指定するが、特に希望する箇所があれば、鉛筆で記入すること。

**校閲**

英文論文については、外国人の校閲を受けることがあり、その場合の実費は著者負担とする。

**別刷**

投稿者は必要とする別刷部数を最終原稿に明記すること。総説，論文，短報，ノートは 50 部は無料，それ以上については実費を徴収する。

**原稿送付先および編集に関する連絡先**

送稿や編集に関係した通信は 〒930-8555 富山市五福 3190 富山大学理学部生物学科，植物地理・分類研究編集委員会宛。Fax (076-445-6641)，E-mail (naruh@sci.toyama-u.ac.jp)。投稿の場合は封筒に「投稿原稿在中」と朱書すること。

## 植物地理・分類学会「入会案内」

## 入会方法

- 1) 本学会に入会を希望される方は、切り取り線より下の部分（コピーでも可）に情報を記入のうえ、郵便で郵送先に送ってください。
- 2) 同時か又は短期間に、個人会員の場合は、年会費 3,000 円（学生会員 1,000 円）、団体会員は 5,000 円を、郵便振替口座 00760-0-904 番、植物地理・分類学会宛に振り込んでください。
- 3) 郵送先：  
〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学理学部植物自然史講座内  
植物地理・分類学会  
Tel. 076-264-5705  
Fax. 076-264-5976

..... 切り取り線 .....

年 月 日

ふりがな	英語表記：		
氏 名	生年月日	年	月 日
所 属：			
同上住所：			
電 話：	FAX：		
	E-MAIL：		
自宅住所：			
電 話：	FAX：		
	E-MAIL：		
会誌送付先（どちらかに○）	勤務先	自宅	
「現在取り組んでいる研究課題，興味のある分類群・地域」について： （キーワードで 5 語以内でお願いします）			

## 植物地理・分類学会

## The Society for the Study of Phytogeography and Taxonomy

会 長 (President)	鳴橋 直弘 (N. Naruhashi)
庶務幹事 (Chief Secretary)	木下栄一郎 (E. Kinoshita)
会計幹事 (Treasurer)	綿野 泰行 (Y. Watano)

## 幹 事 (Secretaries)

古池 博 (H. Furuike)	太田 道人 (M. Ohta)
西沢 徹 (T. Nishizawa)	戸崎 弥生 (Y. Tosaki)
野上 達也 (T. Nogami)	植田 邦彦 (K. Ueda)

## 評議員 (Councilors)

石沢 進 (S. Ishizawa)	清水 建美 (T. Shimizu)
御影 雅幸 (M. Mikage)	高橋 弘 (H. Takahashi)
中田 政司 (M. Nakata)	

入会申し込み、バックナンバーほか当会発行書籍についての問い合わせなどは会計幹事までお願いいたします。

(〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学理学部植物自然史講座内 綿野泰行 電話 076-264-5705 ファックス 076-264-5976)

その他のお問い合わせは庶務幹事へお願いします。(同附属植物園 木下栄一郎 電話・ファックス 076-264-5874)

投稿に関するお問い合わせなど編集業務については編集委員長までお願いいたします。(〒930-8555 富山市五福 3190 富山大学理学部生物 鳴橋直弘 電話 076-445-6625)